

明水加
 號 648
 卷 2止

博本
 文庫

同
 三

雅言客解卷之下

子部

白井憲成 編輯

た 田手誰

たづ 梯鶴 又万 鵠 鳥之

たの 和鷹 又 鷲 鳥之 又 高

たひ 梯鯛 又 平魚 魚之

たこ 和海蛸子 貝似入裸而圓頭者也

たま 万靈 又 魂 又 玉 又 珠

たち 同 劔 又 太刀 又 裁 又 断 又 館 客舍人 立

たび	同 旅 又 羈 又 度 又 遍
たけ	和 菌茸 形似盖者也又 竹 又 嶽 高嶺を云
たふ	同 谿谷 水出山入川曰谿水與谿相屬曰谷
たき	同 瀧 飛泉又飛湍又たきりてたきりたきりたきりふとも云
たつ	万 發立 又 建 又 龍
たへ	棉 拷 織物又 妙 又 堪 又 勝
たえ	同 絶
たゞ	万 直 又 正 又 只
たみ	同 同 又 廻 傍らむ舟ハカト云
たご	葉 田子 田をうぐる者を云○孫氏物使の奇は「袖ぬらげこひちとかりちうまうまうま田よのまうまうま」

三

たて	和 楮 戦具又 經 織糸の又 蓼 草への清濁追て可紙
たな	傳 棚 記 板舉
だち	万 等 大神等ふと云
だふ	種 辞 今呼老女為太字米
たうめ	梯 專 今呼老女為太字米
たふる	同 倒 獸の死に斃と書ハカウ科云
たくみ	和 工匠 巧人云
たびと	万 旅人 重なる音ハ省ク
たぬき	和 狸 獸云
たどり	同 鷄鳥 小鳥ありて似雉云

たぢひ	傳	蝮	虫又姓之和丹比
たうろ	種	虫集り居を云	
たづね	和	鑽	剪鑿器
たきし	梯	施	船ノ尾
たづき	同	鑿	廣又斧又
たらひ	同	盥	手洗又
たむろ	同	手折	草木を手とく折又 山のたきある所を云
たむち	同	撓	たむく共云
たもと	万	手本	又
たらん	同	帶	又

たきき	傳	手次	紀	手纏
たをれ	種	淫	又	戲
たの免	同	令頼	人のしんをものまひるを云 マセの約メ	
たまひ	梯	賜	又	給
たうび	同	違	又	忤
たひら	同	平		互
たぐき	種	敲	又	叩
たをけ	同	奸	又	婚
たどひ	梯	譬喻		
たがち	和	徑路	步道	

たぢま	梯 但馬 國
たけふ	同 高生 <small>武藏又但馬の評云催馬樂子けふのこころとらふ越前とらふ</small>
たいま	同 當麻 <small>大和</small>
たまご	和 玉籤 <small>玉何ふこと多くられどこれまぶけ</small>
たふぐ	傳 蟾蜍 <small>ぐとくくさるよれ名とらふ</small>
たやめ	梯 婦人 <small>又万ニ 弱女</small>
たつふ	同 田令
たまひ	同 魂
たすき	和 手子 又 手端 <small>手末</small>
たむぎ	同 腕 <small>一云宇天</small>

たがへ	同 相扱 <small>以拳扱人也 又 耕 犂</small>
たごひ	梯 手巾 <small>手拭</small>
たさぎ	同 犢鼻褌 <small>和ニ袴而無跨謂之褌一スマシモノ又 まくろさきの畧</small>
たむぐ	万 手抱 <small>又 手拱</small>
たらちね	同 垂乳根 <small>根はほむる辞冠辞考日たらの義 とらおやの冠辞</small>
たまさか	同 邂逅
たうどの	和 樓
たづのき	同 女貞 <small>木</small>
たぢぢ	傳 橘 <small>木名義タヂマモリと云人新羅ノ国より持來たりよふりてタヂハナと云あつし</small>
たのむら	和 篁 <small>竹ノ叢也</small>

あひむか

和笋 又 筍

竹ノ初テ生也竹筍味甘平無毒燒而服之

あひまつ

梯松明

燒松ノ續松も同○評云紀ノ煉炬万ニ手火之光云々これより手火松ノ或云たき松の音便

あひくさ

同 戰

あふと

同 貴 又 尊

あふよ

万 漂蕩

あまづさ

玉 玉 梓

上古ホス人の梓使とやうハ梓木ヨ玉を付
しを梓使と使れとせ玉梓の使と
又ウツク梓をさうてウツク梓木と云ふ
又ウツク梓をさうてウツク梓木と云ふ
又ウツク梓をさうてウツク梓木と云ふ
又ウツク梓をさうてウツク梓木と云ふ

あは

梯 偉 又 傀 又 万 満足

あわた

万 猶豫

あは

同 狂言 又 梯 謔言

あちま

同 頓 又 乍 又 十七夜 月ノ立待の意

あや

梯 窈窕

あめら

同 踟躕

あひ

梯 貯 又 畜

あつ

同 携

あか

万 霏霰 又 棚引

あか

同 激

あか

種 嗜

あか

同 助 又 扶

あけかえ	傳 酣 <small>又</small> 闌 <small>樂酒共飲洽共注一と言義の梯たけいふ</small>
あはぢれ	梯 戲 <small>ウタゲナカバの畧うらうらな</small>
あてぬき	万 經緯 <small>機糸</small>
あづぬの	傳 枓網 <small>之</small> 白の枕詞 <small>ツナを古ハツス共ス</small>
あゆや	同 高行 <small>ふ</small> 隼の枕詞
たまきはる	万 魂極 <small>ち</small> 命 <small>又</small> 世 <small>ヨ</small> とづく冠辞 <small>又内裏とづく時々珠木張といふ</small>
たまぼろ	響 玉銚 <small>之</small> 道 <small>チ</small> の枕詞 <small>賜々銚の道古へ道といふ二つの名ゆ今云野道</small>

山道の道其二つの朝廷より平は任まら道より聖武天皇此節度使は給大御哥の丈夫之去云道曾おけろと思ひておくふまはらゆのよ。〇とらり是く扱はさよ出たら銚を所賜る例数くも畧は又細矛千足の困とらも細ははゆふ云千足大借字道聖の義少く是も同意なりむ

たうみ	万 高御坐 <small>天皇の御座を云</small>
たしなげ	傳 立繫 <small>系竹</small>
たごじも	同 疊菰 <small>ち</small> 幣の枕詞 <small>あそもる菰重と云ふ二ま三年のへんをいふ</small>
たまぐすき	同 玉緞 <small>ふ</small> 采の枕詞 <small>本ウナゲちを瓊と云ふナゲハネと約</small>
たくぶすま	同 枓被 <small>木綿と同一物へ又或説ニ新羅とづく冠辞と云ふちき白と云ふはつくくへと云</small>
たけらう	和 炬火 <small>束薪灼之</small>
たかつせの	同 穀 <small>五穀をツののふりもの云</small>
ためつもの	傳 味物 <small>うばき物とため何と云膳夫はタメの姓を伝ふ事なり</small>
たまよひ	玉 魂呼
たかごろ	和 掌 <small>手心へ一云タナソコ</small>

たもとほり
〔万〕回徊 又種 徘徊

たかむる
〔種〕窳

たひらけく
〔万〕平安

たかづく
〔同〕思置著 青垣山とつくりやかりの義青山の炭

たむけぐさ
〔同〕手向種

たまがし
〔響〕玉堅磐 又 玉拍葉 同一唱へて別ん

たやす
〔種〕輒 たやす〜

たむほひ
〔同〕イ 体言小云時ハ位置のまゝん

たまがしま
〔万〕玉籠

たづさばり
〔同〕携手

〔六〕 〔八〕

たてまざれ
〔種〕奉

たまのねや
〔梯〕玉祖 河内

たうひうる
〔万〕高照

たかづつめ
〔同〕織女

たきごのぞへ
〔松乃落葉〕高砂の尾比上 山は峯をさす砂の尾比上との名を播戸の地名もあつて名もさるるれえ

山は尾の上の杭祠のやうふさかといひさあて津の玉のふかハおもひ居る上うさくも雨ふさとのて懸きさるる後撰集子兼浦〇さうさのふけゆきまゝさす砂の尾比松尾ふくのともさく〇ともあふさやく心保保てよあふさまはハさ砂とふさきよあふさ砂のつりてさくあつてと云舊説いといつてさうさあふさ砂の山とさくさくといふれ

千ノ部

ち	ちえ	ちへ	ちゝ	ちご	ちぎ	ちぬ	ちり	ちふ	ちぢの
千乳茅	種千枝	同千重	和父	同赤子	傳千木	和海鯽	万落	同玄	傳千葉之
道路	血鉤柱		父為考母為妣	含乳之義也	氷木共云本腋木下を省けり上を省きとの差のこみと通り云云私云屋の上ちぢの本	魚	又散又塵	辭古くはとつと云をちふといふ今てふといふ	葛の枕詞 葛の葉の多き物あれん

ちおむ	ちぶや	ちひろ	ちらふ	ちをや	ちかひ	ちぢのび	ちまた	ちをび	ちぢむ
和乳母	万茅草	同千尋	同散相	梯禪	同誓	種違	傳衢	史幸	種縮
		此外千里千年ふと千何てふ言多くられと云れよけり		衣服			道侯又和巷		
							里中ノ道也		

ちりやぶる	ちりほび	ちかづく	ちひさく	ちろひぢ	ちまじ	ちぎり	ちきり	ちりら
〔万〕	〔種〕	〔同〕	〔同〕	〔梯〕	〔和〕	〔種〕	〔和〕	〔種〕
千磐破り神 <small>宇治の冠辞</small>	散 <small>ほひの辞</small>	近	小 <small>又少</small>	塵土	糶 <small>又粽</small> <small>以菰葉裹米以灰汁煮之令爛熟也五月五日</small>	契	膝 <small>織機卷經之木也</small>	力 <small>又主稅</small> <small>稅の訓ふれ民力より出るる</small>

ちかふる	ちろひぢ	ちからふ	ちのびさ	ちのまが	ちぎら
〔和〕	〔種〕	〔和〕	〔同〕	〔頭〕	〔和〕
鱸 <small>魚之似鮠魚而有黒點也</small>	鏤	逆靱 <small>馬具也</small>	紫参 <small>草也</small>	散 <small>のまぎれ</small>	幘 <small>婦人喪冠也</small>

ツノ部
津又の小通ふ

つき	和 鳩 <small>鳥之赤喙自呼之鳥也又</small> 月 <small>又</small> 突 <small>又</small> 附 <small>又</small> 盡
つゑ	梯杖 <small>又</small> 丈 <small>和以竹木為之呼輔老人也</small>
つは	同 石路 <small>草之</small>
つた	和 絡石 <small>此草苞石木而生又</small> 蔦 <small>故以名之</small>
つゆ	玉露 <small>言義ハ粒忌のよしよてつゆづらてきうらうらふとりの忌とい清潔かうと云雪のユも同</small>
つげ	和 黄楊 <small>木之又</small> 告 <small>坪</small>
つぼ	同 壺 <small>所以盛飯也又</small>
つる	同 鶴 <small>鳥之又</small> 蔓 <small>草之</small>
つく	同 木兎 <small>鳥之似鶴而少兎頭毛角者也又ミ、ツク共</small>
つみ	種 摘 <small>又</small> 積 <small>又</small> 罪 <small>つみの物りつるまにつみのまよくりつり</small>

つぎ	同 次 <small>又</small> 繼
つら	和 頰 <small>面旁目下也又</small> 列 <small>又</small> 連 <small>又</small> 貫 <small>又</small> 蔓
つる	同 釣 <small>設釣餅取魚之</small>
つま	傳 妻 <small>又</small> 万 裙 <small>衣の端之又</small> 爪 <small>下よえらるるつまつま</small>
つな	万 繩 <small>又</small> 綱
つひ	同 恒 <small>又</small> 常
つひ	傳 拳 <small>又</small> 束 <small>又</small> 塚
つひ	同 乍 <small>辞之此事と彼事と相交つると其間ハ互辞</small>
つひ	万 裏 <small>藁裏をといひて物を包きたることかろを指し包まぬものをいふ人は移りて又持ちかへるるもつひ</small>
つひ	又 土産 <small>又</small> 苞苴 <small>又</small> 朝 <small>初時の上下畧つとる仍き</small>

つて	万傳 <small>タへの約</small>
つち	和擣衣杵 <small>又土</small>
つはり	梯腓 <small>孕始也 和</small> 擇食
つらひ	同使
つらふ	同仕
つむじ	同廻毛 <small>牛馬體一云旋毛</small>
つみで	和牽絞 <small>挽糸繩</small>
つみ	同鼓
つくゑ	梯机 <small>又案</small> <small>傳名義ツキスエりてキスオクと約了 坏居</small>
つるぎ	傳劔

つぐみ	和鶉鳥 <small>鳥</small>
つど	梯躑躅 <small>木一又</small> 槃 <small>又和</small> 茵芋 <small>又イ</small> 羊躑躅
つむぎ	万海石榴 <small>又常</small> 椿 <small>又唾</small> <small>口中津</small>
つむか	同茅花 <small>又萸</small>
つくも	和江浦草 <small>一云タクマキ</small>
つまぎ	万爪木 <small>薪細ヲ云</small>
つむぎ	同鳥翅
つどふ	同集
つむら	同委曲 <small>つまひららとも</small>
つぶさ	傳備 <small>又具</small>

つらく 和哥 初字 氷 うつくしきつらとつらと見えゆるやうなり

つくた 和 佃 作田

つくし 同 筑紫 肥筑の国々を云又 土筆 まきまきツツクシ

つよる 種 強

つのれ 同 疲

つぐら 傳 葛

つぐら 和 兵 器之形と其器をいふ人を云

つぐら 同 衝立 つきとていときと通或去音便

つぐら 同 築塙 又塙

つぐら 和 土塊 土片也

四

つぐら 同 舩 小漁舟

つぎゆ 和 槻弓 弓木の名之字書槻堪弓材と云えり

つぎくさ 和 鴨頭草

つぎまた 同 鹿角菜 海菜

つぎくさ 同 積雪草 寒冷故以名之亦連錢草

つるむ 万 椽 椽實

つるむ 梯 啄 鳥取食

つるむ 同 越 又 蹴然

つるむ 同 朔 月立之私云舊曆の辞之今陽曆は不可用

つるむ 同 戊 十幹の一土の兄

法らぬ	種遣	やふに付てふこと
法らぬき	同貫	
法らぬふ	同刑	又罪 あふの辞
法とめて	傳翌朝	
法ままり	梯約	數の辞より出やうの辞
法くろひ	同繕	取鳥理毛の紀ニハつくらふとゆれとろのうよ
法ぐのび	傳償	給あるのふハそのふかふの數
法らぬる	種連	又陳 還所値也とも酬報也ともなり
法らぬる	傳醜	サカチツの又原氏常ホマウヨヨ又万五ふかふの
		式くふくふはもつてつう強ふんそつろふちんそつろ
		又種よきげは物まらふとあり

五

法まき	万由縁無	又強面	私云ツラニと同言あむむレナの約
つるぎだち	傳劔太刀	身小添の枕詞	ラるれバ試ヨ云
つぎ糸ふや	同継苗生	山代と法ぐ枕詞	ヤハヨとつむむこと
			ネとある山より木を伐取其跡へ木の苗を生し立む料
つめきはふ	同角障經	萬ニツツサフ	蘿這ふ石村の枕詞
つむしかぜ	和燼		葉葛ふ
つきらひ	同紙		牛相触又以角觸物也
つらちり	梯九折		葛折
つろをかえ	同革		獸皮去毛
つらいさる	種被遣		使みゆく人よつきまふこと

六 七 八

つきのぬれ
つぐらめ
つこのひど
つむがはち
つめつき

和調布
同鷺 白腹小鳥也
同客作兒 エノ類
傳劔の名
梯兵部省

テノ部

て 手而出 濁訓

てり 光 又種照

てふ 梯 古何々と云言をてめて何々ちふとも何々○又蝶種ニ
と云と中世より作ててふと云

三

三

てら 寺 梯 燕ニ朝鮮語よててらといハテテ韓語也

てをの 梯 鉞 工匠具

てらば 万 不曜

てらふ 梯 街 評云てらふといてらふの畧燕ニ字書ニ言行相會
而自媒以利已と云

てだて 和 歩楯 歩兵ノ所持也

てほこ 同 矛 又 鉞

てか 同 扱 手械也

てくれ 同 凵 網鳥者媒也

てへり 王 者 云々者上の語子付てよむこと
てへりハトイヘリといふことあり

私云字音多く和名カハニラゴと何れと後世
多くてふと云と多れといハテテ

四

てすきひ

乘手進

すきひの條よりてすきひの地より名所なり
ひききく手慰の名より

てぐるほ

和輦

后居宮中縦容所乘謂之輦

てらづき

梯啄木鳥 又 劉木

鳥の方言けらづき

五

トノ部

せ

戶外礪利門與十常鳥跡雖

濁訓

せど

梯戸母

老若ふちの戸主を云評云紀戸母と云古ハ老女
死すまて戸主かれハ戸則家ハ後小家ト云俗ハ

せと

同十

數ハ又万撓

せひふ

同問

又訪

せき

種解

又疾 又時

三

せこ

万常

とまも云又床

せぐ

種遂

又磨 又研

せぶ

梯閉

又紆 註鹿縫といへりあれとも
トツの言ハおち

せみ

種富

又急 又頓 頓の字音とすハぬん

せり

万鳥

又鷄 又獲採取捕

せし

傳年

名義田寄ハタヨハトと約ハあハ共ハ共云云故ハ
年ト云穀のさハ其ハ神の御靈以て田小ハ

せむ

万侶徒

又友共 又和 又駮 又鞞 在臂避又
強具也 又 艦 船後頭

せむ

同等

又雖

せち

同共

とち	和 栢 <small>木</small>
とち	万 認 <small>又 尋 又 求 又 留</small>
とび	和 鳶 <small>又 鳩 鳥</small> 又 飛 <small>ぶ</small>
とよ	記 豊
とろ	和 梅 <small>木</small> 又 科
との	同 虎 <small>猛獸也</small>
とま	同 殿 <small>宮殿名</small>
とびを	梯 鯨 <small>又 和 鯨 飛魚</small>
とかけ	和 蠅 蛭 <small>一名 蝮 蛭 虫</small>

とも	同 照射 <small>聶支少時家貧常照射見三白鹿射中之 明晨尋蹤血矣</small>
とふひ	同 烽 燧 <small>邊有警則舉之</small>
とろり	同 幌 <small>帷幔也</small>
とふみ	万 鳥 網 <small>ノアの約</small>
とろり	傳 舍 人 <small>左右近親仕奉者之近習舍人等之 天皇皇子等の使ひ給ふものとして各義を 殿侍のノハハを切むれハネとあり 又トネとあり元より別ありむ</small>
とろり	同 隣 <small>戸ありハヒラヒの約</small>
とろり	梯 神 門 <small>鳥居</small>
とくさ	和 木 賊 <small>草</small>

とまろ 和 蕨 芋類之味苦小甘又万地所

とよむ 万 動 又響

とぐろ 同 動響 又記 動鳴

とひら 和 扉 門扉也

とほそ 同 樞 門戸ノ樞也又種ニ 戸樞 戸のひらひらぬきやあきあきあひもるをいふ

とのい 梯 宿直 宿をいふかの万ニ 假字マツル 侍宿 春海云殿居の意マて かの假字ニいけり

ともゑ 同 巴 常ニあ字を用又江次第 朝繪

となへ 同 唱

ときた 同 常磐 評云等伎婆ハ己以の約

とまり 和 泊 今案播磨国大泊ハ海路ヲ付てハ 輪田泊此類也

とらふ 様 捕 和ニ囚人トラヘビト

とちく 同 撓 ふり小同

とほし 同 遠 記ニとほしともあり

とぶえ 種 絶

とみひ 同 呪 詛 傳ニ説請ニ但よれと請事ニ見えハ詛ノ字ニ 請神加殃謂之詛ト修

とぢめ 同 結

とやま 史 外山 奥山小むて外山ト云

とつぐ 種 嫁 私云テをつぐのまあむ戸ノ家ノ戸主のまふ

とちる 同 留

とまろ	種鎖	私云元戸刺もむり
とまろり	万鳥狩	
とほろ	梯通	又紀 行去
とろこ	源	精進の後魚を用る○私云宣長大人も此通る事のやうなめ
とろづ	和	維舟索
とろふ	梯調	とのちり
とろふ	同伴	共ふい
とろふ	同訪	問を延べる語の○評云くの言ひ予ふの字は約
とろひ	燒火	和燈燭
		器照曰燈燈燭
とろ	同每年	注毎年謂之等之乃波

とろ	同	比歳
とろく	種	非時
とろく	同	轟
とろく	同	迹驚
とろく	万	矯
とろく	種	咎
とろく	同	響
とろく	同	時
とろく	梯	長
とろく	同	常登婆
とろく	記	族
とろく		又 儔

の後ハ時繁のきあててままかくとらと
 ろくはさう非時の字はあひて泥むらう
 私云あまのよるまをく
 評云とこ常とハた常磐の畧哥よん
 俗をちて切はけ
 朋族の義とく

(五)

やまきのけ	和疫 民皆病也
とほつみや	同高祖父
とほじや	梯大 万二河とわらわしとよめくハ河の大あらん宜長云りやうあ りまてたさやあをちりくと種著明をりてり
とほいせ	同闘雞
とらへびと	和囚人 繫禁罪人
とらつら	梯解蔓 草
とごちやう	同滯
とひらのま	和石楠草 木
とほつみや	梯遠江 國和ニとるらわくとと
とよよふ	傳常世國 上つ代トコヨと云ふ三つは一つよと常世 の長鳴鳥又常夜の思慮神と常夜の心

(六)

(八)

とよのちやう	同豊明 万ニ豊樂 食て御顔の赤らと坐とまを るまう大嘗新嘗 限らぬことと
とらさかのり	和雞冠菜 海菜
とよのすごい	傳十節菅薦 十段小結と菅薦ふハ垣と結 ハ節結ヤフジマリとあらとれあ
とほむらうばま	紀東西 私云十所編と薦あらん一〇傳引哥陸奥の十府のすうと もセふよと君を寝させと三ふよとと秘
とぎととら	梯鶴鴒 鳥

(七)

二つハ大長谷天皇大御哥ハマヒスルヲミナトコヨニモカモ又紀ニ伊勢國ハ
則常世之浪重浪帰國也万ニ我國ハ常世也成牟とららんとハ字の
如く常とハあくと不變とを云り三つハあくと何方とまれ皇國を
遙に隔り離とくととむとく往及り此処を渡くと各々名義底依國を
同豊明 万ニ豊樂 食て御顔の赤らと坐とまを
るまう大嘗新嘗
限らぬことと

ナノ部

な 名勿菜魚汝無莫不字

なへ 梯苗 休の初て生うん

なみ 同地震 又地動

なま 同繩 又索

なほ 種猶 辞俗みまぐ。それでも。やつらう。かとのみまをい

なぶ 又直 黙 響ニ方子黙とよあふも同をこくやよむあしおま

なえ 梯撫 かてらう同○春海女あうらう俗此歌こらしあて

なぎ 種萎 万ちあんと向うお倍はあえと夜ふとん

なぎ 万和 又種ニ 無風 かむとも云又 椰 木ん

(三)

なり 傳如 似むん又 為 又 成

なせ 同汝兄 夫婦兄弟の間けくちうは女を妹とらふこと

なふ そど 万奈何 又 何如

なれ 同狎 又 馴 又 汝

なげ 罨無氣 又 投 同云まふあ振之○のさくふのまの山をま

なだ 是の無氣又○おれむいおつりまてこそうくわめつとあや

なだ 万難 ひちまきのあふい備系はり

なき 万哭 又 泣 又 無

なべ 同並 あくの又 共 同又 塙 菜魚翁

な 和梨子 木ん又万 無 又 為

かげり	和長押
かたて	同 暇 <small>田間道</small>
かぎさ	万 漱 <small>又和ニ 渚 一益一否日渚</small>
かぎ免	同 長雨 <small>又 霖雨 かつほあめの約又 詠 <small>声をとめて むらう云</small></small>
かづも	同 流
かづみ	同 煩 <small>又ふる雪を掃きあつてあふ流きそげを云知え 同くして義具あり</small>
かほり	梯 直入 <small>豊後郡</small>
かふた	同 難波 <small>津国</small>
からひ	同 成相 <small>讃岐</small>
かゝり	種 誥

かてふ	同 何と云
かげき	同 歎 <small>又万ニ 悲悽</small>
かぢり	万 隠 <small>かくるの古言</small>
かづら	同 隨 <small>神あつちん又 乍</small>
か免	同 无禮 <small>又紀ニ 輕</small>
かおり	置 餘波 <small>又 波残 又 魚残 <small>唱への同きまゝ 混しゅうり干</small></small>
かびき	種 靡
かぐさ	万 慰
かぞへ	同 准 <small>ちまうらふも云</small>

からび	種 鳴又平
あらび	同 雙又並
かやむ	同 艱
かむる	同 嘗
かのる	同 名告
かふ良	傳 汝妹 女子よ稱之
かろぶ	和 涕淚 目ノ汁也又万ニ泣
かく然	万 斜
かうば	乘 半 中端の義ありて中央の字をもちあり大半ハ四分ニ 小半ハ四分一ニ強半ハ三分二ニ弱半ハ三分一ニ
かるむ	万 雷神 又和ニ 雷公

かはせ	梯 蚱蟬 虫之雌蟬不能鳴者也
かえくぢ	同 蚰蜒 虫之
かえろ	同 苗代 稻種をむろきまふ
かのりそ	万 莫鳴菜 海菜也
かてしこ	和 瞿麥 一云やあまつ
かよたけ	頭 細竹共云
かほびと	種 平人
かまづひ	玉 愁 朝恒家集子〇あまの玉の年たけをままひは 身をまそくくくくくひはくそまむ
かまひひ	梯 業
かほざろ	同 等閑 植進也

かほらひ	梯直會 <small>なまなりちへ</small>
かひらひ	万靡相
かづきひ	置漬浸障 <small>又 馴携</small> <small>同言ひてえよう別格なうらうら 休らうらひはめつとも万葉にあり</small>
かぶおふ	頭名負 <small>名をとらるといふも同一</small>
かづらふ	種存命
かろうど	同媒 <small>私云佛人の音便かへ</small>
かまめき	同妍 <small>又 冪 窈窕</small> <small>拾遺ニあるあく身もかありぬこのあひまうら らまはなほあかうらん生紙布又尼を海士よちえ</small>
かみ	万中々 <small>中昔うらひ返うらと云はよのこころみれまの元ハ あうら</small>
かみ	後撰 哭々 <small>きとくふくふくうらんキク通ふ又説終止言を 糸とて一つ格もいふ</small>

五

かたむる	種宥
かめらつ	同滑
かづひと	記長人 <small>世の長人よて長生人を云</small>
かづづき	万九月
かつつ	同耽懷 <small>又湖月ニハ馴付と同語とらう又 嬋媛 冪ニ云</small>
かつさの	傳夏草之みり相寢の枕詞
かまよこの	冠甲斐の冠辞
かまえのき	和荊 <small>木ん</small>
かかつつこ	同豹 <small>似虎而圓文者也</small>
かいうら	梯蔑 <small>撫之代也</small>

六

あつがら

傳 鳴鏑

矢名義ナリカミフリヤ神のこをきりヤ
ハラと約る

あつこのも

同 難詞

あつこのも

あつお

梯 名小負

ハ助又あまおつとも云○常典云あ
あつおと云へあつおと云ふこと古くあ

あつなむ

玉 垂

なむたうと云へう

二ノ部

小

丹似荷煮于

小

梯 虹

又ぬぐも云

小

和 西

方角之又

小辛螺

貝之

小

梯 鶺鴒

又鳥

水鳥之傳今かいつぶると云

三

小

同 庭

和ニ屋前之又

場

海上の静あをニハと云平あ
を庭は譬

小

同 新

小

万 熟

又和又柔

小

傳 贄

又梯

苞苴

をとニヒアへの切りたるを新物
を神も人もを饗食はつても

食あより又和ニ
出より 鮓 魚名

小

梯 煮

煮え

小

同 丹生

大和又越前郡

小

同 壬生

安藝遠江安房之評云氏の壬生も古へ
みぶと云今みぶと云ハ誤

小

和 錦

小

梯 膠

煮牛皮作之

三

小らき	同	菹	菜鮮也
小ふし	種	鈍	
小がし	同	苦	
小ぎて	傳	和幣	ニキテのテハタへの約くたる云母してニギタへニギハ即和又熟の字をとを訓うタハ絹布類を惣云也
小たり	種	濁	
小ぎる	同	握	
小へさ	源	甚多	紀ニよめりともみ多き云んさ云共云
小びた	梯	新田	上野郡又陸奥郡
小たづ	同	地膽	虫
小つど	和	茵芋	木んをりへ共云

小きみ	梯	瘞	瘡類今小きびとも同
小むそ	同	甘遂	草
小はひ	万	薰	又香
小たの	同	頓	又梯
小はび	梯	燎	庭火
小じり	種	躡	
小ぐる	同	逃	
小くむ	同	憎	又惡
小かひ	梯	荷	かひふハ辞又擔
小ぎめ	和	海藻	味苦鹹寒無毒俗用和布

梯ニ餘光ハ燃く後小声
みも香も毛ヨリと有り

小ひくさ	和 地膚 草ん
小ひかへ	傳 新嘗 新穀を神子もろ給ひ天皇も食し給ひ 臣下ももまへん
小おもひ	梯 漿 食物ん
小ぎいふ	同 賑 又かき小きりー
小ごやの	同 柔
小ひづり	梯 新治 常陸郡ん
小ふがえ	和 新川 越中郡ん今よひらいと云
小いつぶろ	傳 庭鳥 <small>カガ</small> ふて 鶏の枕詞 此鳥の本れ名ハカケるを 人の家ハ庭ハ住ゆえ 庭つもと枕詞ハ云統るを後ハ庭をもとのを呼てカケ てふ名ハうせぬ○契冲云カケを家終の字音と思ふハ誤ん
小ひまごさ	梯 蘭茹 草ん又ネアザミ

五

小八ざら	同 朱櫻 木ん又ハカ
小いたづみ	和 潦 雨水ん
小うのかゆ	同 酪 温牛羊乳日酪
小きへミ	同 蚘蛇 虫ん蛇文如連銭錦ん
小くがぶろ	梯 鶴鴒 小鳥ん
又ノ部	
ぬ	瓊沼 寐宿鳥不野 古言
ぬえ	梯 鷓 又 鶴 鳥ん又エコトリ共云
ぬひふ	同 縫 衣まをぬふん

六

三

ぬる	万睡 又 眠 又 塗 <small>紀ニ漆部をぬるべとよめり</small>
ぬれ	同沾 又 濡
ぬき	和拔 又 緯 <small>織横絲也謂緯則經可知 又 貫</small>
ぬで	傳鐸 <small>鈴の大ききるを云 又 擗 <small>和ニ惡木也</small></small>
ぬぐ	種脱 <small>衣ふとを云</small>
ぬさ	万幣帛 <small>そと神子扱ふ帛布にて後木陸麻を云</small>
ぬし	記主 <small>のうしは物</small>
ぬま	和沼 又神賀詞ニ 沼間
ぬの	同布
ぬの	同糠

三

ぬぼ	傳瓊梓 <small>玉をかきれる牙也</small>
ぬか	和蓴 <small>水菜也</small>
ぬの	同零餘子 <small>署預子也</small>
ぬま	万盗 <small>ぬまはむとも云</small>
ぬる	種温 又万 少熱
ぬひ	同繡 <small>和ニぬむものなり</small>
ぬら	拂額突 又 叩頭 <small>頭めて地を突へ</small>
ぬた	傳野羽玉之少夜の枕詞 <small>後黒とも簡ともつけり 或人の説ニ鳥扇の葉を</small>
ぬえ	同賣と云枕詞 <small>或人の草のめと云まき</small>

四

五

六

ぬこぐすり

和 枸杞

木の俗音クコ

ぬりぐさ

同 王孫

草の一云ツチハリ

ぬづちのうこ

傳 野推神

野の神

ぬづきむ

和 叩頭虫

虫之細微者觸之輒叩頭

ネノ部

衾 根嶺峯寐寢睡宿不音

衾 や

万 房

又

閨

私云もと寐屋あるべし

衾 毛

種 煉

衾毛縮まるとん

衾 ぢ

同 捻

戻らするまゝん

三

三

衾 ぎ

衾 衾義

神は仕あつ者んネガヒの義カヒの反キあり
続紀ハ衾義のうふ書見也

衾 ぎく

梯 鼠

小獸ん

衾 こま

和 猫

形似虎ん

衾 のひ

禊 子の日

正月初の子れ日野へは出て小松を引て祝とれ

衾 ぐら

同 埒

鳥の寐処ん寐坐ら衾ぐら鷹とハとやふらむを云

衾 びる

和 澤蒜

菜ん生水中心

衾 らひふ

梯 伺候

又万 狙 衾らひふと云

衾 ぶる

同 眠

ふとむ同濱臣云衾むるとかたうとあ一必衾ぶるん

衾 うひふ

同 願

又万 慕

衾 ごと

和 億

寐言ん

のむぎ	〔万〕祈	又 禱	又 吞
のみ	〔和〕鑿	工匠ノ具又	蚤 齧人蟻虫ニ又
のろ	〔万〕告	又 乘	車馬おもとよニ又
のま	〔和〕海苔	又 法	罵詈
のせ	〔同〕鶴	鳥ニ屬ノ屬也又	載
のし	〔同〕紫菀	一名紫菀 又	熨斗 所以熨衣裳也
のど	〔万〕和		
のち	〔記〕後	又万ニ	以後
のら	〔万〕野	又紀	郊野
のぎ	〔傳〕鯁		魚刺在喉也

三

のつち	〔梯〕蝮	毒虫ニ
のむし	〔和〕蠹	木中ノ虫ニ
のらえ	〔同〕蘇	野荏ニ
のせり	〔同〕苳胡	草ニ
のまき	〔梯〕暴風	ノワキノカセ又ハヤチ八月頃らるるニ
のこふ	〔同〕拭	手巾をたのこふ
のむど	〔種〕喉	舌門の義ニ
のころ	〔同〕殘	
のろひ	〔梯〕呪咀	のハ祈ノ畧ろひハ辞
のぞく	〔源〕臨	比子のそきとら松子養ふまろ又かまを又
		除 又 覲

のぶる	種展 又述 又延
のぼる	同升 又万 泝
のぞく	万長閑 <small>私云と和ありむ葉ニ和氣の義之秋の哥小のころよめふる古へええとあやうと云り</small>
のぞひ	乘野飼 <small>牛馬を野に放ちて之を飼飼飼云と云む</small>
のぞみ	玉望 <small>玉の類は夕望をくら望字のぞみと云むへきみやや淡世傳はこところのあへたのぞみと云む</small>
のぞと	記祝詞 <small>のりとことかえ</small>
のだち	和刺刀 <small>短刀</small>
のざき	玉荷前 <small>荷をノと云ふこと木をコ又火をホと云ふこと身のあみまをくらく例に紀は荷持此云能登利と云り又万ニサキノハコノ東の国より年毎に奉る始の調物と荷前と云ふ</small>
のづる	種遁

四

のたまひ	梯宣 <small>昔給へ〇評云古ハ告事をもつもの云</small>
のどむる	種舒 又万 和
のくづる	同罵
のちまめ	和豌豆 一名野豆
のかぐみ	同白前 一名石藍
のほきり	同鋸 <small>似刀有齒者</small>
のむどぶえ	同吭

五

ハノ部	は 葉羽齒端翳
-----	---------

古支記ハ日足とかけり古支記ハまづるまよつたてむ
とつふ古語

たつしも 和 霏 執 早霜

たーたの 同 鷓 似鷹小者

たやふさ 同 鷓 又隼 鷹屬也

たまぐり 同 蚌蛤 一名 含漿 貝

たへとり 採 蠅虎 此虫似蜘蛛恒捕蠅為糧者也

たらべひ 同 匍匐

たかづら 同 牛麋 牛馬を繋ぐ

たくぐり 同 貝母 草へ形似粟貝故以名之

たまゆふ 玉 濱木綿 芝原春房の語りたる今の世は濱ありと云物あり一丸五ハチセのこころ七月

たどかこ 梯 薑 草

たまはひ 同 蔓荊 木

たぐべら 和 繁萋 草

たまひ 同 蒺藜 草

たどくさ 同 大青 草

たまふれ 同 蕘花 草

たかびら 同 葩 草木ノ花片也

たかぶさ 同 萼 一云花房承花附也

たせせは 種 芭蕉葉 和名と何の字音へ近世哥小多くよめり

花さくちを白く垂るる本綿は似たるはたきと
さくちや今も紀の国能野浦又そ近き浦くもはたきと

ちどめ	種 梳弓
ちいむこ	掃墨 膠漆具
ちうびう	同 葬 又 故 八ふりを廻る云
ちふら	散之
ちたき	種 霹靂
ちからふ	同 計
ちどとこ	同 半部 志の部より
ちがかり	同 憚
ちびころ	同 蔓
ちびり	同 遙々

五

ちやふ	傳 速贄 速ハ初物を云贄ハ二の部より出
ちゆまぢ	万 驛路
ちわ	同 小端 又 端々
ちひめ	湖月 橋 姫 宇治橋の下北姫大明神とヤ神之離宮の神 月 姫神子通ひ給ふと云説あり又住吉明神の 通ひぬと云説あり○さしりち子衣くくし記こよひちや まれば付らんちの橋姫の住吉明神の御事と云
ちがめ	同 齒固 元三の日記事之齒ハよひとやういひを うくむる云く餅大根橋をゆくと
ちふその	梯 祝園 山城の元ハありとの
ちいばら	同 碁原 遠江郡
ちぎば	同 碁星
はたかりめ	同 促織 虫

はづろひ 梯 啟 鳥理毛

はしらひ 和 白拂 僧坊具

はひまゆ 梯 杜仲 木

はます 和 防風 草

はらのえ 同 大角 戦の具

はふづら 種 花鬘

はら 傳 散

はなが 頭 花籠 籠の目を花子とて云カタマ共云

はぬ 万 從元

はる 同 春之在者 シヤの約けい春子かれへてふ言より一子
の約ナをササ小終してサレと云り例多

は 種 半

は 史 鼻祖

は 傳 早馬 ヤウハユと約る後世の早馬

は 梯 匍纏 ハヒヒとわろふ又ハヒヒとウツサヒヒとナリ

は 和 鰻鱺魚

は 同 旋花 一名美草

は 梯 權衡

は 同 外祖 外祖母

六

七

ヒノ部

ひつぎ	記日繼	日の神は御任をつぎ、あろしめをよしの名
ひくお	傳曾孫	凡て物を隔るをひとの孫に重隔る子に曾孫を又一重隔る子に水の氷もこれ
ひくむ	和額	又蔽髮 容飾具之註蔽髮前為飾也
ひくお	和雛	鳥の子にひくとあく音ひくとあくとあくと
ひつど	同羊	獸
ひくる	同蛾	虫之註蚕作飛虫
ひづめ	和蹄	註畜足
ひつぢ	同糶	又オロカオヒ〇註自生糶
ひこえ	和抄	木細枝
ひろめ	和昆布	海菜

ひさぎ	万楸	木之又鴉南 又販 やまぐ買てきく賣
ひいづ	搦秀	穂出るの穂を秀をホとのまよあり
ひしほ	同醬	醢を肉ヒレホ
ひただ	同檜皮	万ニたぐずきき皮為酢寸と書
ひたを	同頓丘	
ひづり	万東	方角之私云名義日からの下畧とつ
ひづち	同塗漬	又泥塗
ひとへ	搦一重	又偏單 衣無裏曰單
ひきぬ	同率	
ひろふ	同拾	又記 披 ひらひとも云

ひのえ	梯	丙	十幹の一火也
ひむご	同	日向	国々ひうごといふ平言也○或説ひうごハ午後
ひをけ	種	火桶	
ひみづ	湖月	氷水	ひやうみづ○契沖云膳夫經曰立秋後不得領氷漿 みづをいふ今按以氷入漿也
ひかへ	種	控	
ひこづ	同	弱	嬾人をひこづひこづ
ひしぎ	記	批	又拉
ひぐき	同	響	
ひろ	種	廣	
ひごむ	同	頑	又僻

ひらき	万	解披	又関
ひたれ	紀	育	又記日足又紀養
ひそむ	種	潜	ひそむ又ひそむや共云
ひるむ	同	痿	又痺
ひ祢る	同	捻	
ひかる	万	照	又耀又光
ひどり	記	獨	
ひうち	同	燧	和始出火
ひさめ	和	霈	大雨之又雨氷
ひさ	記	庇	又久

ひらの和盆 瓦器

ひらて同葉手 祭祀具又紀 葉盤

ひとや傳獄囚 凡て屋に居る人の名をふり別てかく名付るハ物をいふ如く人を籠むるを以て棺と云々同一

ひとま和棺 所以盛屍也

ひとよ万全夜 又一夜

ひさこ和杓 斟水器又 瓢 たりとて可為飲器者也

ひこけ万牽牛 又 男星

ひもろ同神籬 檜室籬也檜の葉もて假し神室の籬を作るをいふ是ハ常有社の外ハ更ハ其神を崇祭る時よあるの響ニ神籬御諸御室杜社宮玉垣瑞垣みくとしつ

ひえ梯鶉 鳥人 神樹皆押込て神の憑鎮り坐るを云

四

ひをぢ同蛸

ひぐら和茅 蛸 小青蟬

ひぐら梯杠谷樹 木ニ又和ニ 黄芩

ひこた同蘘

ひさか和杓 似荊可作深灰者

ひさ梯鹿尾菜 伊勢物語奇引を扱てふゆまるとり

ひま同衿 帶 小帶

ひぢり同泥 又こひぢ土和水

ひぢ同釧 在臂上者るといふと云

ひ種めく 犇

五

ひらほ	梯	今入と書ハ八塩折酒又八塩折之紐刀又呉藍之八塩乃衣ヤホイリノ畧ト云フイをラ小通して云ハ春海云ヤホリハ秋ハクも云フ
ひたふる	源	永頼頓絶既切 此ハフを紀ヨハフと云フ又尺管ハクサリ
ひねもほ	万	終日又盡日
ひきいせ	湖	加冠の人を云
ひさかたの	万	久堅又久方ホテ天又月又空あるの冠辞
ひつづき	梯	白鮮 草
ひとなまひ	同	副車 後乗
ひとりごつ	種	獨言
ひこづらふ	同	引相

真測翁ハ匏形の借字
と云れど猶可考と云

六

ひろがへり	同	飄
ひむろのひ	頭	騎射の日仕事 此夏玉ニ説々を奉てんまもむるまよてふかくな雅美のようんわら
ひきよもき	和	馬先蒿 草又茵陣蒿
ひめかぐこ	同	徐長卿 草
ひろむろ	同	蛇床子 草
ひをぬめろ	梯	太白神
ひびがづら	同	蘿髮 祭具 和ニ蘿をヒカゲ又松蘿をマツノコケ又サルヲガセと云
ひこいせ	同	鯉魚 小魚

フノ部

ふ	生	歴	經	蜂	音	<small>濁二字一訓 万戲書</small>
ふふ	和	鮒	<small>魚</small>			
ふく	同	鯨	<small>魚一スフクヘ</small>			
ふぢ	榊	藤	<small>フヂカヅラ</small>			
ふし	和	節	<small>竹中隔而 不通者也</small>	又	節	<small>草木擁腫也</small>
ふト	榊	富士	<small>駿河郡又山名</small>			
ふえ	同	笛				
ふみ	種	文	<small>又</small>	書	<small>又</small>	踏
ふて	同	筆	<small>元文手といひ</small>			
ふ祿	和	船	<small>私云下は云ひつゝふふと云</small>			

ふき	万	吹	<small>又</small>	振	<small>ウキ古へあきと云又</small>	葺	<small>屋又管あしを あくる</small>
ふり	同	零	<small>又</small>	落	<small>又</small>	降	<small>又</small>
ふぢ	種	伏	<small>又</small>	卧			
ふけ	万	更深	<small>又</small>	闌	<small>又</small>	更降	
ふき	同	觸					
ふち	和	潭	<small>又</small>	淵	<small>深水</small>		
ふゆ	同	冬	<small>四季の一</small>				
ふた	万	二	<small>又</small>	蓋			
ふと	記	太	<small>多くたへよ云</small>				
ふぢふ	榊	蒲	公	草	<small>草</small>		

ふくき

和路

葉似葵而圓廣其莖煮可噉之

ふゆき

同冬葱

又凍葱凌冬不死充食
今按凍葱即冬葱也

ふのり

同海蘿

俗用布苧

ふまの

種卧猪

竹ノ器

ふるび

擇篩

ふまほ

和被

又衾

ふくろ

記袋

同

ふこた

和簡札

所以寫書記事者也

ふもと

同麓

山ノ足

ふくえ

擇合

花初將開ふくふはふりふむ
ふくふふりふむ

ふさぎ

種塞

ふさがふくふま

ふせぎ

同防

又距

ふづく

同恚

ふさひ

同相應

記二不良をふさひとふさ

ふかこ

和舟子

於是擲棹

ふぐき

種風雨雪

ふくる

同更

ふし

梯鳳至

能登郡

ふたの

同二處

長門

ふけひ

同吹飯

濱又人の名

ふくろふ	和 梟 <small>鳥</small>
ふしづけ	同 罽 <small>捕魚物</small>
ふしづこ	同 石龍芮 <small>草</small>
ふとまふ	紀 太占 <small>ふとハ稱へて云々太何と云ふ多くは占</small>
ふづくゑ	種 文机 <small>ふづくゑの畧机の義</small>
ふさぬ	同 摠
ふのむる	同 深
ふるをへ	遠 振延 <small>ふるをへと云々</small>
ふるさけ	万 振放 又 振仰
ふくづき	同 七月

ふどころ	傳 懷 <small>給</small>
ふるまひ	種 舉動
ふまどふる	同 熏
ふまのまう	傳 船餘よて 還 ^カ て來 ^キ むの枕 ^カ 詞
ふゆきかほ	同 冬木如 ^{フユキ} よて 枯 ^{カラ} の枕 ^カ 詞 <small>カレをカラとのみ多</small>
ふくくさ	和 牡丹 <small>私云牡丹と異名の如くつみめれと楽天詩云云出言あれハ心す</small>
ふまよそひ	種 艤 <small>舟</small>
ふぢごろも	同 縗 <small>喪服之評云古今集はち衣といへ云をつくり</small>
ふるつぐこ	和 鼓鼓 <small>の古へ喪事はさきて麻布を用</small>
ふぢもろ	種 蘭 <small>草</small>

六

あこみる 同 躑

あろわきふ 和 耆宿

あまのうらこ 同 岐神

あまきこ 万 故京

へノ部

へ 電 綜 舳 經 戸 方 瓮 重

隔 應 訓濁

へ 種 捉緒 鷹の足子付こ

へ 和 蛇 虫之 又 据 木腫ノ節中為杖也

三

へ 同 輕粉 漆使赤所以著頰也

へ 同 卷子 間巷所傳續麻圓卷名也

へ 榊 竈

へ 和 鱒 弋射ノ收繳具也

へ 万 間 又 障 又 隔

へ 和 屁 下部ヨリ出氣也

へ 梯 諂 又 諛 不實言也

四

ホノ部

ほ 穂 火 百 帆 秀

ほく	和	頰	面旁目下也
ほそ	和	脰	腹孔也又
ほそ	同	骨	細
ほえ	和	啤	又吼 獸声也
ほく	万	禱	又種 祝 又 壽
ほく	同	乾	又干
ほく	和	星	又 欲
ほく	万	欲	又 堀 又 穿
ほこ	記	戟	又 矛
ほて	袋歌	最手	角力の手なりと云

ほぞ	万	間	又 程 又 記 陰處
ほぞ	和	寔	又 藁 李之類皆有寔
ほや	同	老海鼠	
ほら	傳	洞	
ほの	和	外	わづら又ちうつくおとのか
ほき	同	菘	老菘をいひられしと云なり新撰六帖ニ〇たらちねのふや
ほくら	和	鰾	魚腸前也
ほく	和	脯	乾肉也
ほたる	和	螢	虫之名義火垂と云なり故ホタルビと云なりと云
ほづえ	和	末枝	

ほのや	栴焰	火の秀又 火は穂也
ほぞち	和熟瓜	蒂落之義也
ほざき	種祝	
ほどり	同邊	
ほうし	歴朝詔 詞解二 法師	字音おとろて 又万 僧
ほのの	万髻鬚	ほのめくとも云
ほりえ	同堀江	
ほむる	種褒	又讚
ほころ	同誇	又矜 又埃
ほそり	同細	

四

ほたし	頭絆	万馬小こぞかぐりうもとよめりもかぐりの 古語ありしをてめてほりしなり
ほいた	和半也	物使半行、不得自縦也
ほふる	種屠	
ほぐら	和寶倉	一云神殿
ほたり	傳秀罇	罇はりく酒を孟注きし器也タリの名也 其口より酒もるよりあり
ほらら	同朗	
ほしひ	種糶	又銀
ほづき	同酸漿	草のかり共云
やどづら	同百部	蔓草也

五

ほそくこ	和半夏 <small>草之</small>
おそごの	同廊 <small>殿下ノ外屋之</small>
ほふい	梯脯 <small>乾魚之</small>
ほむぎけ	同綉 <small>冠ノ緒又老繫</small>
ほむ	傳殆 <small>音便ハハトドセンと云々下ノ字獨ニ例ナクハトドセント云々トノトクモハシ言義邊々々其近キ辺々々々云々</small>
ほころぶ	種綻
ほくむ	同微笑
ほどこ	同施
ほろぶ	同亡 <small>又滅</small>
ほそくつ	和燐 <small>燭餘炭也</small>

三

ほが	梯厚朴 <small>木之</small>
ほと	種漬
ひら	梯玄蕃寮
マノ部	
ま	真間目際
まき	和鱒 <small>魚之又</small> 増 <small>又</small> 升
まい	梯烏牛 <small>黒牛之</small>
まて	和馬蛤 <small>鱧ノ屬之又</small> 諸手 <small>又</small> 左右 <small>片手小對</small>
まつ	種松 <small>木之又</small> 待 <small>又</small> 候 <small>又</small>

まき	和披	木作柱埋之不腐者也又 又真木 <small>まき</small>	卷	糸ふとをこ
まめ	同豆	穀 <small>こ</small> 又紀	忠誠	眞實 <small>まこと</small> を云
まど	同的	以皮爲的爲鵠		
まり	同鞠	今通謂之毬子 <small>まり</small> 又 <small>まり</small> の畧 <small>り</small> を云 <small>まり</small>		
まゆ	傳眉	目上毛 <small>まゆ</small>		
また	和胯	両股間也又	亦	又
まろ	種屎	まろ <small>まろ</small> を云		
まや	和兩下	門舎三品已上五架三門 <small>まや</small> の兩方 <small>まや</small> ハ軒 <small>まや</small> を云 <small>まや</small>		
まち	同坊	又町		
まど	同牖	又窓		在屋曰窓在牆曰牖

まひ	万幣	賄賂の意 <small>まひ</small> あふ共云 <small>まひ</small> 又	舞	舞 <small>まひ</small>
まへ	梯前	目方 <small>まへ</small> 尻方の反		
まで	万至	又及	迄	
まけ	同儲	又設	任	又負
まづ	種先	辞 <small>まづ</small>		
まの	傳禍	又凶	惡	凡て直 <small>まの</small> くハ曲りて <small>まの</small> き <small>まの</small> を云
まき	万纏	又枕	枕 <small>まき</small> を云 <small>まき</small> を云 <small>まき</small> を云 <small>まき</small> を云	
	又卷	又種	蒔	上二字 <small>まき</small> を云
まふ	同隨	又占		
まぎ	種覓	又求		

まほ	種正
まよこ	梯石炎螺 貝
まゆえ	和檀 木名 又万檀弓
まふご	万砂 又細砂 又愛子 又真子
まぐさ	和秣 馬草
まくら	同枕 承頭木名 義纏坐坐入て物をせうる ぞろを云
まふこ	同眼 目子
まつげ	同睫 目瞼毛也
まわら	梯参 評古まわらまわらハ参るハ入の畧 又らんハ来 参出
まらうで	同詣

まどか	同圓居 俗子車座居とのまま
まどひ	同纏 まつらと云
まらる	万雜 又交 又まらるるハ俚言ハまらるる云へ
ませ	同啓 又奏 又白
まうけ	梯儲 又設 音便
まのひ	同躓 不正カ 又紛 又亂 花ちうまひまと
まよひ	同迷 又紕 註繪欲壞私云き紀りうの肩のまよひ 云く是
まどひ	同惑 万ニ延てまどひをよめ
まづ	同貧
まそ	万真朱 その部は委

ま祿く

〔万〕數多

宜長大人のま祿くとよまれ
真淵大人のまくと訓き

又招き

まもり

〔種〕廻

まどほ

〔同〕間遠

又伊勢桑名より尾張へ
渡る海を間遠の渡りと云

まくる

〔同〕負

まぐる

〔同〕曲

まつり

〔万〕獻

又奉 又祭

またま

〔種〕奉

又遣

まろび

〔同〕轉

まくせ

〔傳〕庶兄

皇國をて異母の兄弟を
まくせまおとつ子

まふぶ

〔種〕學

まかて

〔同〕罷

又退

まおと

〔同〕實

又信 又誠 真言真事といふ

まさり

〔同〕勝

まどこの

〔同〕圓

まわり

〔万〕間守

又護 又候 迎てまわりひ共云

まがりた

〔掾〕望陀

上總郡

まのた

〔傳〕真木拵めて檜の枕詞

まぢら

〔万〕丈夫

又益荒夫 手弱女子對へる稱
まぢら字あへ

まぐち

〔掾〕繼母

まかたち

〔傳〕從嬪

まかちらのまぢら子等といふ女を云古
言へ天皇の御前候お臣等を前つ君と云

おららうど	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
客	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和

おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ	おろろ
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
客	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣	眼氣
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和
稀人	和	和	和	和	和	和	和	和	和

稀人

和 眼皮をまぶさるる○春海云眼居の羨より眼

和 眼尾

和 まろく共云註目數動良

和 画眉墨也

和 壁帶 壁中之横帶也

和 俎 厨の具私云真魚板をらむ

和 目合 シハヒを即物の合こととて目と見合をらむ男女女

和 青

和 蠱 盛物の意上のまろくは青

和 禁厭

和 眞清水 眞ははあさるることとて六帖よりまろくか

和 隨順 又万二不奉仕をまろくはぬとよめ

和 擬 又 賄 宛之當

和 坐

和 睡

和 弄 又りてあそぶと云

和 隨意 又 任意

和 拱 コマ又クと固まて互に手を

和 見

おろろく
種塗

おかりち
万罷路

おちのき
同不遠 又間近

おかくあ
傳真髮觸ふて奇とつく抗何

おきねづら
同真榮葛 まさねのころら共云

おぬいり
万蛭隠

まつりごと
傳政 祭事や、祭政一致もよく

よかばら
同鵲鴿の一名と云り

おぬうら
種免

おひつみ
頭白銅鏡 真澄日鏡を畧てうら出雲国造り賀詞トマツ
此の大御鏡と天照せし日といふ是古言也

(六)

おひくは

傳無目堅間 菰の竹と竹とのるれ堅く密りて目のふたを
云方ニ玉勝等と有も此物へカタミもカタマの物と

(七)

ありごとの

和廳 延賓屋也人衙也

ミノ部

み 御身 實箕 鯨 瑞 似豕而肥者也

見視 看覩 監相 三

詞の山たる風をいふとふとのみハ宜長大人のサニとられ萩原
廣道ハキユエニと名付へるとらう又あうらうをみかゝのハアリ
モシあらハモシと名付へると宜長大人のハハれき同一句のミヨ
もあうらうは名付へきあり

(三)

みや

記宮 御屋也

みこ

万皇子 又親王 御子也

みそぎ	万	潔身	又	身被	又	襖
みづき	種	磨				
みたき	同	亂				
みのり	万	實	又	登	又	御法
みやけ	傳	屯宅	朝廷の御料は御田に付る 御倉又其官所を云			
みうき	梯	參河	国へ			
みくまり	万	水分	神又山の名古事記 訓分云又麻理			
みづき	梯	瑞籬	評云みづきはみづきと瑞の字を 用ひてとまゝにさし置るは稚のまゝなり			
みてぐら	和	幣帛	又万ニ帛			
みづりか	万	御殿				

みそぎ	和	山陵	大御墓を云
みづき	梯	湖	大池へ
みまが	万	御佩	
みおも	同	御面	
みやびを	同	遊士	又風流士 私云官振ふてブリハビと約す
みどりこ	和	嬰兒	始生小兒へ
みやつこ	記	造	又臣
みのり	梯	三膳	藏府類
みまひ	同	聾	
みづく	同	木兎	鳥へ又つ共云

みづづき 梯 躑躅 鳧雁足、指、間有幕相連著者也

みそいぎ 和 鼠尾草 艸

みもづき 万 六月

みづつら 梯 自 身自心とへう

みづう絲 和 水銀

みつのえ 梯 士 十幹の一水此兄

みどかり 同 短

みどろぐ 種 身動

みちびき 同 導

みまほ 記 嚴潮ハカふて速待ハヤマナといふ枕詞 ミイ通ふ

五

みさくも 万 見放

みづぐりの 傳 三粟之ふて中ナカの枕詞

みづとほる 同 水停ふて池イハの枕詞

みふそく 同 水催ふて魚イサの枕詞 そくくのクハもむあよひて
る事やまへオとつくハ魚の

まへあよひて魚と云ふ此魚をオとハククのクよウの音らつ
てウを省きラとウを切むれハオとあふ

みつあぎ 梯 芟 草

みもづこ 同 漚標 水脈識つハ助

みつぞかり 同 準繩 常云みつを

みつぶる 同 漉水囊 僧坊具

みやつこき 和 接骨木

みやづつへ	〔万〕官
みづゑら	〔葉〕御河水 <small>源氏古今集ふとふん御溝水</small>
みかぢ	〔梯〕稚々 <small>稚くすくすのあそび</small>
みちのむ	〔同〕陸奥 <small>国こちのくとも云</small>
みそふい	〔種〕覽
みつとむ	〔同〕極老の躰 <small>葉まはらつらむとあつてまゝ〇稚苗とてよきときこゝをかん</small>
みよせ	〔玉〕水無瀬川 <small>古こみせ川と云ふ一つの川此名まはらつらむといれまれあのみせ川といふはよてはるいぬの子をあらへとあつて上へあまき川をいづつ万葉多しと云統よむへ古よりミナセ又ミナレ共通なり云とゆふなり</small>
みよま	〔傳〕溝合

七

ムノ部

む	身將六
むべ	〔擗〕郁子 <small>瓜類 濱臣云昔ハはとくくさる本草和名はてあそび</small>
むぎ	〔和〕麥 <small>五穀の一つ</small>
むく	〔記〕掠 <small>木へ又向</small>
むろ	〔和〕櫪 <small>木へ一名河柳又室 小むろふと</small>
む孫	〔同〕胷 <small>又主</small>
むこ	〔同〕督 <small>女子之夫爲督</small>
むち	〔同〕鞭 <small>所以獲馬驅逐</small>
むつ	〔万〕親 <small>又六 數</small>

三

むら	むら	むけ	むた	むまご	むきめ	むつき	むざ杯	むぶふ	むらで
〔万〕	〔種〕	〔同〕	〔傳〕	〔和〕	〔同〕	〔同〕	〔傳〕	〔榊〕	〔和〕
虫	群	平	與	孫	娘	襦	正身	貉	蜈蚣
又	又	又	又	子之子為孫一云ヒコ	少女之稱之生女	小兒被也又	身實のまゝの俗に本人と云徑のうゝ	獸推古紀傍訓子ウシナと云古ヘウと云語後世ム誤多一紀の訓是	又
生	村	向				正月			百足
き	むらもむらふと群何と云多く何れと云	向	万風之共浪之共字の如く其物と共ある古與の字を訓			舊曆の号			虫

むかぎ	むくら	むらろ	むやひ	むうひ	むか	むくい	むつふ	むだき	むあ
〔同〕	〔万〕	〔和〕	〔種〕	〔万〕	〔同〕	〔孫〕	〔種〕	〔同〕	〔傳〕
鱧魚	葎	筵	舫	對	古	報	睦	身抱	虚
魚	草	竹席		又	又	むらむらと書ハ誤	又		無實又
				向	昔		眠		空
				又	又				同
				迎	喜				
					おむらの畧向りきま				

むせふ <small>ひ</small>	同咽	又哽咽
むらと	和腎	水之精也色黒
むまき	同牧	私云和ニムマ何と云入交りれハ牧也 ウマキあらむウマ考ふヘキあり
むさき	傳武藏	国ハ古ハムサシト云々濁マシ
むかひめ	同嫡妻	又正妻
むきび	和鼯鼠	状如後而肉翼似蝙蝠中畧如小兒者
むしべむ	種虫喰	
むさほる	同貪	
むつる	同憤	

むらさめ	和暴雨	私云群雨あま〜
むらさね	同紫草	花をりて名々云花子黄白紛紅ちの紫色 小灰ヤスレりのと云
むらばき	同行膝	讓脚可以跳騰輕便也
むかろく	傳向股	兩股ハ是正相向故耳
むふがき	和當胃	馬具
むらとろの	傳群鳥之少	群の枕抱
むすほる	種鬱結	
むぎおすき	標杆麵杖	倭擗杖
むふまき	傳蒸被	暖ふまきの被褥 木の義子て必しも甚熱くすまのを云云
むらきめ	万村肝之少	心の冠辞

六

むすぶのそと

和産靈

メノ部

免

目眼女妻芽海藻二字一訓

令

二

免ひ

梯姪 兄弟之女也

免け

種召 又御 又食 又喚

免で

万愛 又感

三

免志ひ

梯盲 又瞽

免ぐり

種巡 又旋 又轉 めぐらひ共云

四

免がれ

同目離 此外目馴ふと目何ふ言ふともいれ

免ぐみ

万愍

免のおと

梯乳母 免のそと又ちおも共云

免のいま

同妻 免のり及と云俗古へハ字をい

免けもの

和牝 畜母也

免がぎ

梯莞蔚 草也

免かつら

同桂 木也

免づら

同希見 此語上の免づらと同く感愛あり希見と

事ゆもいふ故に今常珍を用 別子考うは後ハ免のそと

五

免のそと

種女童

福五

然もあやふ
 源 然もあやふハあやふしく見ふむをさるる
 うろろき物の文をさるるやうあるかあり

毛ノ部

毛	裳	藻	最	喪	方	以
毛む	梯 鴟	又 百舌鳥	小鳥心			
毛み	和 擬	木心松葉栢身心又	鼯鼠	註ハムノ部ニ出		
毛く	同 桃	木心又	股	人躰の内心又	百	数心
毛け	同 木瓜	一名楸 木心其實如小瓜也				
毛り	万 杜	又	社	神の坐き所をれハかあらは木心		
毛ぢ	梯 缺	又	鑽心			

毛ひ	同 盃	たまひ又まりサエ瓦器心水を盛器をさるる心私去後うろろてハあをさるる心と云ふ心かかかん心
毛え	同 萌	草木芽生心又 燃 火氣心
毛ち	和 糲	所以粘鳥也又 持 又 望
毛る	種 漏	又 盛 又 守
毛む	同 揉	又 搓攤
毛や	傳 喪屋	毛てふ心ハマダ事の切りさるる心て凡て凶事を云心上つ代ハハ九人ハ喪屋を作りて死人を入ハさる心
毛の	万 鬼	和ニ邪鬼をアレキモノと云ふ又 物
毛だ	傳 黙	ムダと通ひて徒然なる心○響又万同ハ心空徒字又空意を俗子む心と云ふ
毛空	種 本	又 元
毛ト	玉 文字	此二字の音をとりて字の字の訓ヲ設けさる僧をさるる心と云ふ心

毛ぶ

〔万〕思 又 念 おぼしみの畧

毛みち

〔梯〕黄葉 又 赤葉 評云もろちの畧もろちを
みて真楮み出さるる言

後唐詩ふとふよりて
紅葉と書も同意

毛づく

〔同〕水雲 海菜

毛ちひ

〔同〕餅 ひの飯の畧もちひと書ひ誤

毛ちひ

〔同〕用 此假字もろちをろちと書ひて春海云俊頼の
餅ふひひけりて暫くよかへん稗史云

毛がさ

〔和〕炮瘡 面瘡之類聚國史云仁壽二年頗瘡流行人民
疫死

毛ぬけ

〔同〕脱 蟬蛇之解皮也

毛たひ

〔梯〕甕 又 甕 瓦器

毛とわ

〔同〕基 本居

毛らひ

〔同〕賄 餽寄食之モラヒム

毛えき

〔同〕萌黄 色之萌葱

毛たえ

〔種〕悶

毛とけ

〔同〕戾 令戾

毛ふの

〔王〕最中 童蒙抄は○水のおりふては月ふかきかき
れはこころひそむけをあらうなるはふの毛

うとよめもつゆのふかきかきと書ひては
のよめは櫻まじりてはうとよめは櫻まじりては

毛とむ

〔万〕求 又 覓

毛かり

〔紀〕殯 死人をへる仮屋喪屋は同

毛はら

〔記〕專 言義一筋ふ方よりて
他義をまへぬ言

毛やま

〔傳〕喪山 美濃藍川の上は送葬山と云はるる言

毛どき	種 梧 <small>俗子同</small>
毛ぎく	湖月 枝もかき木を云 <small>これとてつるものゆきあはるる</small>
毛ちづき	和 望月 <small>日在東月在西遥相望也</small>
毛とつめ	同 前妻 <small>一云コナシ</small>
毛どどり	同 髻 <small>屈髪也</small>
毛どゆひ	梯 髻 <small>註以組束髪 又万</small>
毛えんひ	同 燼 <small>火餘木</small>
毛とほり	同 旋子 <small>鷹具之 又万</small>
毛よほき	同 催 <small>春虫樹心こよひ 出たよりいへ</small>
毛こよふ	傳 委蛇 <small>斜去貞と註せるふくや近くむ蛇ふとの 行良子と註せるふくや</small>
毛とほり	同 徘徊 <small>又廻</small>

毛ぢずり	種 毛ぢずり摺の意
毛のすろ	同 物 <small>まろハ為</small>
毛そか	同 響
毛くし	記 百磯城あり大宮の枕詞 <small>オホミヤ</small>
毛らびと	同 諸人
毛のた糸	紀 物根 <small>又記</small>
毛のくふ	万 物部 <small>又</small>
毛のいこ	栞 齋 <small>物忌之神宮子称まろハ孝徳紀子見也朝夕の 御饌を供へ物事子齋戒とてまろハ名とせり</small>
毛むのふ	栞 桃生 <small>陸奥郡之或説まろハ訓へ</small>
毛とろろ	同 物理 <small>備前々</small>

五

毛くらふ

和木蘭

和名ふれも字音

毛たらげ

傳百不足ふ八十と云枕詞

又五十共つ

毛つたふ

同百傳ふ角鹿の枕詞

多くの道を付ふ

毛ふぶふ

同股長

契沖云足を伸てゆらう小や採了きふ

毛のころひ

梯癲狂

病名

毛とろふ

玉文身

からさふも身をりくろまこと訓了夫木抄俊頼朝臣の寄○事務をりくろまこと訓了

毛のがさ

ちられくろまこと訓了神をりくろまこと訓了書紀景行天皇の御巻も文身のりくろまこと訓了

毛のころひ

百語

又紀

談

毛すのころひ

響 賄のまふり入てりくろまこと訓了本字は中子かろまを云散木并哥集は○とろふふふの系はりくろまこと訓了

毛すのころひ

賄のまふり入てりくろまこと訓了本字は中子かろまを云散木并哥集は○とろふふふの系はりくろまこと訓了

八

毛すのころひ

同証哥各畧ス

おれハ常よ云枯枝小虫蛙ふとをき

毛ひさの

小へ子へは別ち

毛ひさの

穉主水司

官名

毛ひさの

傳百取机

百ハ数の多きを取ハ荷持とらハ持の

二

ヤノ部

や

屋舎室箭矢彌八輻哉

やぢ

万屋所

又

屋戸

又

宿

やな

和魚梁

取魚籠謂籍

やま

万山

私云山風山里と山何てふ云多ふれと山よそふ

やまど	やま	やふ	や	や	やみ	やき	やほ	やへ
同 倭	万 破	同 脂	和 海鬮子	傳 稍	万 闇	種 燒	同 八百	梯 八重
又 和 古(の)天皇専ら大和(都)にたまたま(了)故(大)和(大)八(例)の惣(名)の如(く)に(成)ひ(ら)る(た)る		木より出(る)物	此物會(神)靈(見)入(即)没(海)中(似)鬮(而)有(真)目(故)以(名)之	今(の)世(尚)く(よ)と(云)ふ(者)也(又)万(差) <small>ネ(多)移(く)や(り)く(も)り(う)</small>	又 止(む) 又 病(む)		私(云)八(十)何(八)千(代)八(十)萬(八)百(萬)神(亦)其(外)八(何)と(云)ふ(多)う(れ)と(大)う(と)數(の)程(又)弥(の)畧(故)省(く)	弥(重)の(畧)

と和倭音通より異国は倭奴とも書うるを以て倭の字ハ書うる後小(日本)の字を以てやまといふはさうけり

やむを	やむ先	やつお	やから	やふぎ	やま	やまこ	やい	やは
梯 鰥夫	同 寡婦	和 婢	万 親族	和 揚	同 知母	同 攬	梯 又	同 筈
無妻	無夫	女之甲称也 又万	又 家族	又 柳	一名兒草艸也	獸(之)後(壽)五(百)歲(則)變(為)攬	燒(又)之(キ)を(イ)通(ハ)ス	箭(ノ)受(レ)絃(外)也

やどり	梯	鏃	箭莖也
やまじり	和	鑪	子 所以利鋸齒也
やまひ	同	病	やまやむ又やまふ共云
やさし	傳	矢	刺 古言ふるくしに射むとて矢を弓みかかるとを 以後世の軍記よりつとふと云是あり
やひ	万	和	
やとひ	種	雇	
やどり	同	宿	又万次
やつる	同	窶	
やら	梯	逐	又 籩 今俗に云追放之本ヤルを延する云
やよひ	同	三月	草木弥生の畧

四

やをら	同	弱	和字を當てるハ意ハ似て假字違へり 和ハヤハ弱ハ ヨワニヤハヨフハワニ通ふ
やぬち	万	屋	中 ノウの約
やうて	種	頓	又 聽 そのまて又まてはまてのまてをわけて よまよハハハハ
やぶ	同	破	又 敗
やぎふ	梯	揚	生 大和マ
やまじめ	万	息	又 休
やまつみ	同	山	神 山をたけりまはれ神をよみへりちの約にて 山つたの意
やましろ	同	山	背 国今山城とく
やいご	梯	玄	孫 曾孫之子
やいづこ	同	奴	

やはぐだ	万	柔虜
やまどり	和	山鶏 <small>鳥</small>
やまぼと	同	鳩 <small>此鳥種類甚多鳩其惣名</small>
やまゑみ	梯	黄精 <small>草んるく又りまふ</small>
やますげ	和	麥門冬 <small>草ん又万</small> 山草
やまがき	同	鹿心柿 <small>柿之小而長也</small>
やまたづ	梯	廣双斧 <small>是今使木者也</small>
やかぐひ	同	箴 <small>盛矢器也</small>
やいぐり	同	弗練 <small>灸器具</small>
やまびこ	万	山響 <small>管家</small> 山彦 <small>谷中響俗子こまと云</small>

(五)

やまのそ	同	山末 <small>又</small> 山端
やくさむ	種	不平 <small>身の</small>
やまらふ	同	休
やいばた	梯	嘒 <small>火田之今ノ畑ノ字ハ火田ニ字を合まらふ</small>
やしあび	同	養
やし	同	漸 <small>本ヤ之其ヤを延てヤウと云</small>
やまたへ	同	山直 <small>和泉</small>
やまいつ	同	楊津 <small>津ノ国々きを音便していと云</small>
やまたづの	傳	山斬之よて迎の枕洞 <small>糸着の敷之及の裁方一向ふをむく迎の枕洞あり</small>
やまがち	和	蟒蛇 <small>蛇之最大也</small>

やたがら	和 陽鳥 <small>紀謂之頭八咫鳥</small>
やらぐさ	同 黃耆 <small>草</small>
やまぶき	梯 欵冬 <small>草</small>
やまぶき	和 大薊 <small>生山谷間者也</small>
やまぶき	同 防葵 <small>草之葉似葵味似防風故名防葵</small>
やまがこ	同 白蕨 <small>草</small>
やふいぐこ	梯 楊管 <small>調度之キセイニ通ク</small>
やうかのひ	同 八日 <small>八許の日ヤを延てヤウと云〇評云古今集の詞 よやうらの日とらうかを日は當ると思ふハ誤り</small>
やまのあひ	同 峽 <small>山間へ又狭き処といふ</small>
やまおろし	万 山下 <small>風之私云本言山おろしといふ</small>

六

やぶまり	傳 八節結 <small>八段子結ひも垣を十府のすぢもの如し</small>
やれごこ	同 八尺鏡 <small>尺八咫のむ八咫にて花崎八つらさとのあむ とらうヤの韻にてアと省く</small>
やまごごと	種 日本琴 <small>體似箏而短小有六絃俗用倭琴ニ 字</small>
やまごごと	万 安見爲之 <small>大君又曰大君ふとつく安見と云し かひ知れぬハ美</small>
やつふげ	記 八拳鬚
やまのかげ	梯 磯道 <small>山路閣道</small>
やまひらぎ	同 已戟天 <small>草</small>
やぶらぎ	頭 <small>いやぶはて木かどのややうてけとまよとのふ藪ささむら むらりのまよひの根之彌生〇湖月抄やぶらぎのふらど 林藪とてけしきとてらとら〇日のひらうやふらうとて いそのまよひかりあり甲も花ハさだたり</small>
やぶらぎ	湖 山田の引板 <small>今のあま</small>

やんごどろき

同 無止事 人よつてゐるに過ぎぬ

やおだのそぞ

傳 山田之曾富騰 此即クエビコんきくそやとの後の

わかぎのたの

万 屋形尾之鷹 哥文要語ニ古今の三班切の類ニ

やんごどろき

記 八塩折之酒 紐刀

ユノ部

ゆ

櫛 柚 湯 齋 忌 從

万ニよりユとよみり由子の

ゆゑ

探 故 又 湯 坐 姓

ゆふ

同 夕 暮ニゆふとも云 又 木綿 ゆふハ月と野菘なり

ゆひふ

同 結

畧勝してユフと云う後ニ穀の木の皮りて造るをユフヤ

ゆゑ

万 夢 本寝取より 又 勤 又 謹 齋を物をつつ

ゆゑ

和 百合 艸一名磨羅 又記 震

ゆゑ

記 鞞

矢をうつて

ゆゑ

同 雪

又 悠紀 大嘗の言義以 又 行

ゆゑ

和 床

ゆゑ

万 響

又 玲瓏 玉の相あれて鳴るを

ゆくへ

梯 往方

後ニゆくゑと云ふ

ゆをば

梯弭

弓末へゆてハ共云

ゆつる

同讓

又遜 又禪

ゆふげ

万

夕占 又タト

タつてらまてまうらうらふ事なり
古トをけと訓ふハ卦の訓より移まる

ゆるが

同聽

又種 免

ゆるふ

種弛

又万 縦

ゆがむ

同曲

又僻

ゆまら

同動

ゆー

万

忌々 又齋忌志

ゆわり

禁

所縁

縁ちるを云縁をよると訓ふハ約ゆえうハ許の
字をよめり或ハ故を借めりといふ

ゆむり

和

尿管

小便へ

四

ゆふき

梯

結城

下總郡

ゆげひ

同

靱負

備前々

ゆふづ

同

太白星

星へ暮見ハ西
長庚

ゆふさ

同

晡

暮へ

ゆこぼ

和

弦月

月之半名也其形一傍曲一傍直
若張弓弦有上弦下弦

ゆふな

梯

夕顔

蔓草也

ゆづろ

同

交讓木

木へ

ゆのち

同

硫黄

焚石液へ俗云由王

ゆこいる

同

射

ゆこづる

同

弦

ゆきづの	梯	附	弓之中央
ゆふかぎ	万	夕	和
ゆきかひ <small>ふ</small>	同	往	反
ゆまのり	探	齋	
ゆくす急	種	行	末
ゆふぞえ	同	夕	映
ゆだぬる	同	委	
ゆ急づく	同	故	著
ゆたけき	万	寛	
ゆくら <small>あ</small>	同	寛	又此字をらて湖月ニゆほひくとまう〇こち、 大河の北ゆほひふあぬ物うはのちらん

五

ゆふされた	梯	夕	ゆふへふかれん
ゆふづくよ	同	夕	月夜
ゆきあたる	万	往	轉
ゆくら <small>あ</small>	紀	不	意
ゆき <small>あ</small> ひら	和	内	衣 以布為沐浴衣
ゆき <small>あ</small> いろ	乘	禁	色 衣は紅紫のつぎハ禁色とて常人ハ用カレ浅 きを許し色とす之ハ大臣の女孫ハ聴色といふ
ゆつ <small>あ</small> ど	傳	湯	津爪櫛 ユツモ齒の繁くく間の堅くせまれ るをいふ

六

ヨノ部	よ	世	代	夜	四	節	好	吉	霄
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

よろ	万 便宜
よろひ	傳 備足 又 鎧 又 甲 <small>よろひとは今の世は人甲をゆふと曹を よろひとらぬるへ死さまあり</small>
よろづ	万 萬
よきご	同 由縁慶
よきり	梯 節折 <small>事ハ式江次第オヨ出</small>
よき	同 弱
よそぢ	同 四十 <small>よろぢの條ヨ出</small>
よたの	和 恠鴟 <small>晝伏夜行鳴以爲恠者也</small>
よせぎ	同 蓬 <small>草ニ名華又艾又豎草</small>

よみぢ	梯 黄泉道 <small>よみぢの畧</small>
よそへ	種 擬
よぎ	同 任 又 封 又 記 依 <small>よぎを延てよぎに云其 事をよせやうに云之</small>
あくむ	同 舌のそろろ負
よだり	和 津頤 又 紀 漬
よこむ	万 讒
よろほひ	梯 透迤
よそやひ	同 儀 又 粧
よのかの	万 世間
よかぢ	同 吉隠 <small>地名ニ無ニ城上郡ニ練寺とあり</small>

吉隠

よこほり	種横	響 ^ニ 物の横 ^ニ かたを云横 ^ニ おの夜 ^ニ ひくこと
よろこび	同悦慶賀	皆同
よもやま	玉	今の俗言よもやまの云々といふはちり拾遺集 ^ニ よもやまの人のけしき ^ニ をす ^ニ を神のたまはる ^ニ よもやまの
よろづよ	万萬歳	紫花物語 ^ニ 花山の巻 ^ニ はこころよのゆかりのささり ^ニ よもやまの
よのつね	同尋常	
よのさか	源性	純 ^ニ よめつよの世 ^ニ 之 ^ニ 又悪をさかあ ^ニ 休祥をよき
よあむ	和蝓蝻	今穀米 ^ニ 中 ^ニ 蠹 ^ニ 小黑虫也
よこがえ	同軸	持輪者也
よべひほし	梯流星	

よろひごさ	同白芷	草
よちむさし	同鮫	以竹貫魚 ^ニ をさ ^ニ 共云
よぶごどり	和喚子鳥	鳥
よせべら	同柳	繫馬柱也
よかれせ	万夜不去	
よもつくふ	記黄泉國	
よみづる	梯鮓	更生 ^ニ 私云黄泉還 ^ニ らむ
よひぢぐら	万終夜	よもやま ^ニ 又よもやま ^ニ 皆同
よこまよ	種訛	
よゝゑや	梯縦哉	又吉哉 ^ニ 又能咲 ^ニ 八師 ^ニ もどか ^ニ るや ^ニ 助辞 ^ニ のこ

ワノ部

輪廻吾己

とた

記海

海ハコトノ義 又和

縣

繁似縣鹿惡也

と

和鵬

鵬おほく 鷲と云

とふ

同鰐

似鰐有四肢喙長三尺甚利齒虎及大鹿渡水打之皆中斷

とた

記羅

鳴羅張とよませり

とく

和篋

収糸者也又

沸

又

涌

又

分け

とふ

万吾

又我

とざ

同行事

又行

又業

三

とき

同別

又和

腋

又脇

との

記稚

又若

又釋

とら

和藁

とせ

万速稻

又早稻

とれ

同破

又我

とぶ

傳託

せむくあきせりある名

とさ

万早

とら

梯童

とらけともぬの名

和末冠之称也

とく

万若子

又少子

古ハ少壯人を羨て云稱

とぎ

同吾妹

ガイの約ギ

こぎへ	万	吾家 <small>又</small> 吾宅 <small>ガイの約ギ</small>
こらひ	梯	笑 <small>又</small> 咲
こしる	和	趨
こらび	同	薇蕨 <small>草之初生無葉而可食之</small>
こさび	同	山葵 <small>補益食也</small>
こづの	傳	纒 <small>又</small> 僅 <small>事のろく子始めて其処子及ひたる如き 之字、註一入色之淺也るなり</small>
こより	種	渡
このま	同	別 <small>又</small> 万離
こかぬ	万	變若 <small>え</small> 又若鮎 <small>こらひの約</small>
ころく	種	惡

四

こすき	同	忘 <small>又</small> 寐 <small>護</small>
こたづみ	梯	海神 <small>後子海の惣名とあり</small>
こらひ	同	俵子 <small>童男女</small>
こかくさ	万	若藟 <small>又</small> 春草
こたび	和	木天蓼 <small>木之又</small> 茵醬 <small>草</small>
こらづつ	同	屨 <small>草扉也</small>
こまづき	傳	脇机 <small>今云脇息の事</small>
こらふた	梯	圓座 <small>草褥</small>
こらび	同	煩
こらひ	同	悟 <small>をのくき</small>

こがやく	種 若 <small>こがやく共云</small>
こがぬる	同 曲 又 縮
こがせぎ	梯 俳 優 <small>せぎ可笑をアチカシとのハ神樂哥はカラヲキとやうを合せて假字もあはれ知る</small>
こきまへ	同 辨
こがひひ	同 禍 又 妖 氣
こくらひ	同 活 又 活 業 <small>常小世渡と云ふこと又ラヒの約リ也</small> 度 會 <small>伊勢</small>
	郡 又 万 渡 相 <small>こくらひ月あとの</small>
こらひ	萬 葉 無 破 <small>響ニこらひられてこらひの同云はてこれオシク思ひて抑へるとすれば胸の思ひの溢れ出る所の如く係は枝き起へて入をこらひむと云極めんもあつたなりと云ふも仰ぐ無理の上界と云ふ人の多きハこらひひと云ふのナシハ係云知つてハシタと云言をハシタナレと云と同格とて只つと云ふけむ知れ</small>

五

こくらひ	万 邂 逅 <small>ふまさとの共云</small>
これのら	響 破 殻 <small>海藻の中よりこらひはくは虫住て年々他生にそのありありの玉ニ上界海の藻の中より交りてやうら藤のさあしと云ふ虫ハ海苔の中ハ交りては干もあつたなりと云ふも仰ぐ無理の上界と云ふ人の多きハこらひひと云ふのナシハ係云知つてハシタと云言をハシタナレと云と同格とて只つと云ふけむ知れ</small>
こくらひやこ	梯 瘡 <small>二日一を發病也</small>
こがのやま	和 蟠 <small>龍蛇卧貌</small>
こすれぐさ	同 萱 草 <small>一名志憂 俗云如環藻二音</small>
こがりもり	同 渡 子
こがらすら	傳 若 栗 栖 原 子 若 の 枕 詞

七

井ノ部

井居座猪彘豕支蘭

率 蝙蝠二字其貌似蝠一訓而大者也

みる 梯艘 船著沙不行也

かど 種 井處 かい田へまくべき料のあけゆりて池川みもいりてを
あま井のりとも思ふ俗に松田(ま)のりともいふ

わい 和 渭伊 遠江

わのこ 梯 豕 又種 玄猪

わさり 同 蛸 井中ヨリ出

かぬる 同 率宿 しき平ネ

かざり 同 膝行 居去

かあとの 同 田舎 田居中の畧

かせき 同 堰埭 以土過水

かぐひ 同 堰堰 杖

かがさ 種 藺笠

かきり 梯 耒底 農具

かふべ 同 負辨 伊勢郡

かのへ 同 井於 河内又 井上 讚岐又 井門 同国

かやひ 同 禮 敬 是ハカヤマヒト
ウヤマヒト

かきらひ 和 醫 坐處

かのちく	種猪 獸也
かのひ	櫛織復 機之卷繪者也
かひゆく	同率往 かのひきかの畧
かやが	種無禮
かやしろ	同禮代
かのとつき	櫛赭魁 草之評赭ハ猪の誤つとわれ共 本草和名中赭と云
かのとつき	同牛膝 草之櫛ニ和知字相似たりつれん是あんと われと本草和名ハ力のつち一名つあきと云
かちごまめ	同珂孚豆 豆之濱臣云畧本和名抄ハちごまめと云 ハハ覆盆子に似たりと云名付ハハの終マハ
かまちづき	種居待月 十八夜ハ私云是陰曆ハての名
かちごまめ	同田舎小行活業云々事

工ノ部

かひ	笑餌繪 字音ハ後世哥ハ多クヨモ
かぬ	櫛犬 獸又ハぬ
かぐ	同菜類ハ鴉群の小者
かみ	同黃精 草又ハアサナ○又 又ハアサナ
かひふ	同醉 酒ハ多クハ
かひ	和彫 彫刻
かひ	櫛越蘓 能登
かひ	種衛士 字音ハ後世哥ハ多クヨモ

三

急 <small>あひ</small>	急 <small>のこ</small>	急 <small>くぼ</small>	急 <small>おほ</small>	急 <small>あき</small>	急 <small>どり</small>	急 <small>おぐ</small>	急 <small>ぐ</small>	急 <small>らぎ</small>	急 <small>ふに</small>
万	梯	同	種	同	梯	同	同	傳	和
咲容 又 咲狀	豕 <small>犬の子ノ濱臣云豕ハカノトシ犬子ハいぬのこト云々ぬのこトモカヘノ豕の字ハ何レ</small>	曆 <small>人笑時頰小見ル者之</small>	笑顏	画工	屠兒 <small>屠牛馬肉取鷹雞餌之義也殺生及屠牛馬肉取賣者也云今ノエタト云者ハ此</small>	喉 <small>出氣息心呻吟也</small>	醜 <small>味</small>	歡喜咲 又 悦喏 又 大笑 <small>エミ榮樂と云</small>	槐 <small>木ノ葉小而青曰槐</small>

四

急 <small>くり</small>	急 <small>ぐさ</small>	急 <small>の杯</small>	急 <small>も</small>	急 <small>ひき</small>	急 <small>ぬのさ</small>
梯	同	和名	梯	種	梯
殖粟 <small>阿波</small>	女葳蕤 <small>草ノ又〇又アマナ</small>	女苑 <small>草ノ一名織女</small>	咲樂 <small>急らきと同</small>	醉哭	狗尾草 <small>草</small>

天

急 <small>と</small>	急 <small>と</small>
ヲノ部	緒絃峯岡丘
男陽夫士丁尾麻苧小少	

不必日唯矣馬佳者以仿真而貴
造貴未必不獲於朝會燕饗也
曰井禾斯畫之如夫仍花于水涯
聽鳥於山陰把筆教真偶者
可忘所斯畫而視之亦亦名者
是亦足矣若其神古文微古歌

分不有甘畫存焉就凡多子矣
刻來畫畫供于後

明正十四年二月

容齋 藤田惟正後



明治十四年九月三日版權免許
同 年十月二日出版

定價六十錢

石川縣士族

編輯者

白井憲成

加賀國金澤區三社宮後十二番地

同縣平民

出版人

中越久二

同縣士族

同

田中重信

同國同區上堤町十六番地

同

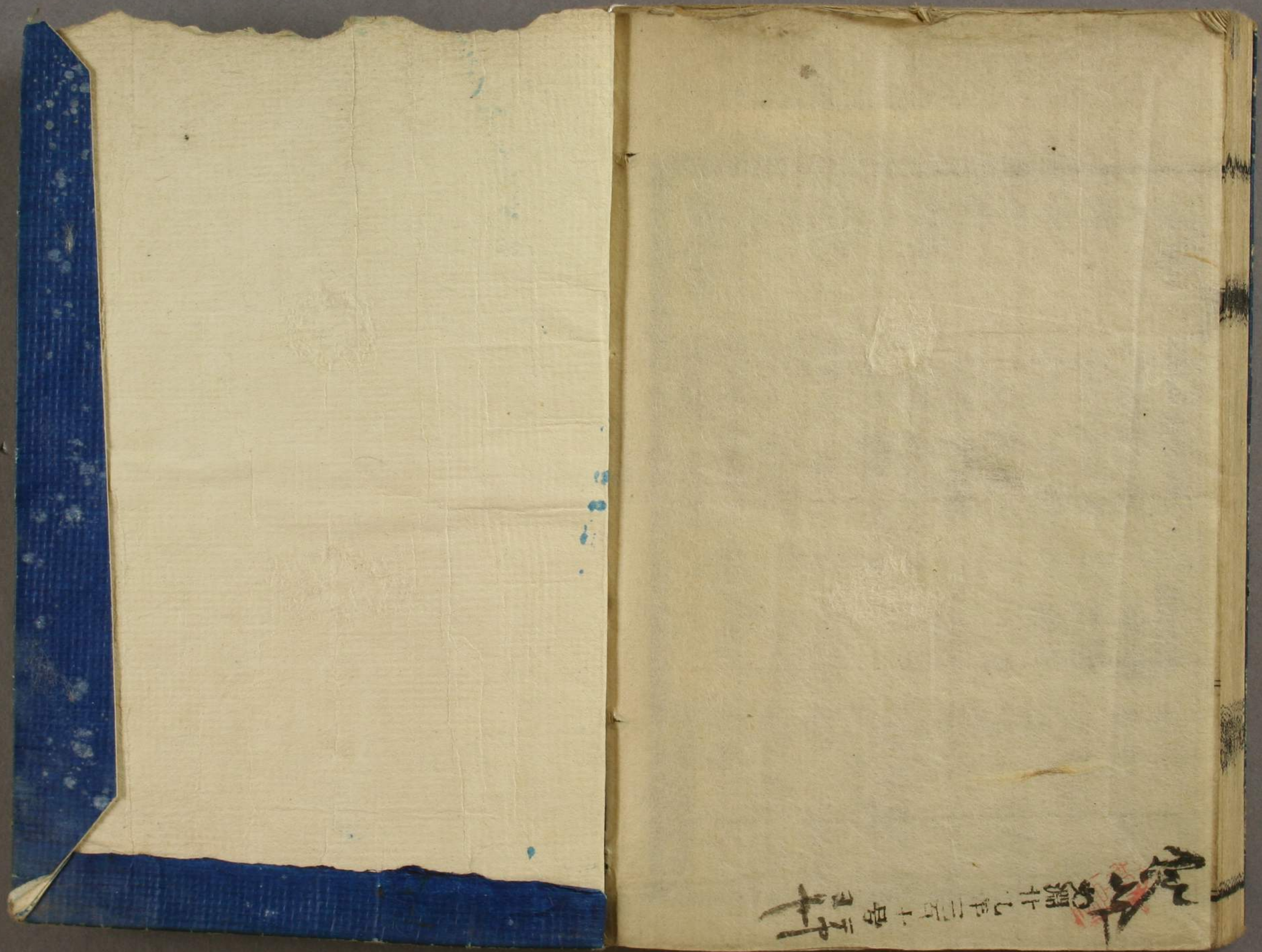
池善平

同縣平民
同國同區南町三十五番地

尾州名古屋	片野東四郎	江州大津	島林專治郎
同	梶田勘助	同	小川義平
美濃大坂岡	安慶助	越前武生	松井治良平
同	平野利助	同	千秋慎一
同	三浦源助	同	黒田善司
美濃波阜	水谷善七	同	吉川進輔
同	笠松王井忠造	同	吉川作二郎
飛彈高山	榊谷重兵衛	越前福井	岡寄佐喜助
同	坂田嘉造	同	酒井安平
越前福井	万司曾平	同	撮平喜平治
同	佐々木忠順	同	平沢潤助
同	九岡山田作平	同	牧野源次郎

越前籍江	竹村寬一	信州長野	西沢喜太郎
同	藤田徳二郎	同	松本豊平
同	坂井港	同	藤松屋損十郎
同	土屋伊平	同	高見甚左衛門
同	伊豆藏又三郎	同	炭屋勇太
同	坂口市平	同	伊藤甲造
遠州濱松	山下仁平	同	相場七左衛門
伊勢津	篠田伊十郎	同	油屋磯右衛門
同	伊藤善太郎	同	土屋半四郎
同	同四日市	同	小方長吉
同	中島富三郎	同	本田勝太郎
同	大塚茂平	同	藤谷直三郎
同	本屋嘉助	同	
同	同松坂	同	
同	同山田	同	

越後長岡	上田谷治八	越中高岡	車平次郎
同	中村作平	同	塩谷與右衛門
同	加賀松任	同	水野佐七郎
同	小松	同	櫻田甚作
同	別宮又四郎	同	櫻田與作
同	牧藤平	同	新井四郎
同	任田甚右衛門	同	增田傳七
同	加賀大聖寺	同	大谷次郎作
同	金城伊三郎	同	畑庄平
同	深城伊三郎	同	波多庄右衛門
同	能登安平	同	清水清右衛門
同	加賀津幡	同	永田文治
同	須貝元昭	同	
同	魁文社	同	
同	渡島箱館	同	
同	後志小樽	同	
同	田附新九郎	同	



紅
北平三石
五

